

2005 年度「卒論報告会」

わたしのゼミでは 7 月に「卒論中間報告会」、1 月に「卒論報告会」を行うのを恒例としている。できるだけ計画的・集中的に卒論に取り組んでもらい、それを後輩たちに継承していきたいからだ。2005 年度の報告会は、卒論提出最終日の 13 日金曜日 13 時から行った。現 3 年のゼミ生 7 人、4 月からゼミ生となる現 2 年 6 人全員が参加して、17 時近くまで熱心な報告と質疑がつづいた。例年の報告会は卒論提出日から日をおいて実施していたが、卒論完成の「余韻」「喜び」を伝えてもらいたいため、報告者には負担をかけることになったが早めに実施した。

7 人の卒論テーマは下記のとおりだ。今年度の卒論は「まちづくりと景観」に関するものに集中しており、あとは「農村と都市の交流」「公の施設と指定管理者制度」「前島問題」である。まちづくりと景観では、京都・犬山・神戸、そして半田などがとりあげられている。いずれもヒアリング調査などを通じて実態にせまっており、今後の課題なども提示している。デジカメが普及したこともあり、多くの写真が卒論に取り入れられており、かつてに比べてビジュアルになり、報告会でも後輩が理解しやすくなっている。また、犬山の現地調査では 586 軒の住居・店舗等を目で確かめて類型化して、伝統的建造物と景観形成を分析していて興味深い。

報告会のあとは、これも恒例の「當り屋」での飲み会である。今回は 2 年生も全員が参加してくれ、2 階が貸切のようになった。自己紹介から後輩へのアドバイスなどへと話が盛り上がり、打ち解けた雰囲気であった。わたしも久しぶりに愉快的気分にあふれた。いつものように美味しい料理に学生も満足そうであった。

(2006 年 1 月 15 日 記)

2005 年度 山田ゼミ卒業論文

地域のまちづくりから持続可能な社会を考える～ 愛知県犬山市の事例から
神戸栄町における阪神大震災後のまちづくり～近代建築の跡地にはびこるマンション
新開発地に対する市の思惑と現実、そして展望 ～ 中部臨空都市から考える
中心市街地の活性化と TMO
持続可能な地域社会～ 京町家再生の動きから考える
理想の公共施設とは～ 公共施設の現状と指定管理者制度から考える
農山村と都市がともに築く社会を目指して～ 新たな交流の取り組みから考える